

2 回のレポート課題（配点：各 50 点）により成績評価を行いました。（なお成績評価方法はつねに見直していますので、今後も同じとは限りません。）

<第 1 回レポート課題（11 月 15 日出題）>

以下は、ある研究者によるシュンペーターの理論の説明である。この説明を、授業の説明と比較しなさい。双方の分析手法の特徴がわかるように比較することが望ましい。

（以下、引用。「法学部の試験」では省略。）

<解説>

授業では、次のようなことを説明しました。

まず、静態に登場する人間は、快楽と苦痛の合理的計算によるよりも、長年の経験によって合理的な行動を身につけた人間でした。動態に登場する人間は、私的帝国の建設や勝利者意志、創造の喜びといった動機によって新結合を行うのでした。

また、静態に登場する人間と動態に登場する人間は、全く異なる別種類の人間ではない、と説明しました。人間のさまざまな能力は低い者から高い者まで連続的に幅広く分布しています。その中で、指導力という能力が最も高い一群の人間を、特別な類型ということにして取り扱っているにすぎません。

最後に授業では、以上のような人間の類型化はあくまで理解の補助のための道具にすぎず、本当の目的は観察された経済現象から法則性を発見することである、という話もしました。

レポートでは、以上のような点を指摘してほしかったです。

なおレポートの中には、引用文に比べて授業は説明が詳しい、という点を挙げたものがありました。これは、授業では時間をかけて詳細に説明したのに対し、レポート課題の文章は短いものにせざるをえない、という技術的な問題によるものです。ですので、これは間違いではありませんが、大きな加点要素にはしませんでした。

<第 2 回レポート課題（12 月 20 日出題）>

シュンペーターによれば、企業者はまったく新しいことを実行する存在であるにもかかわらず、資本主義が必然的に社会主義へと転化することになっている。

なぜ企業者は資本主義から社会主義への転化を止めないのだろうか。

これについて、シュンペーターが矛盾している、あるいはシュンペーターのパラドクスである、という説明がなされることもあるけれども、合理的な説明を与えることも十分に可能

であろう。

そこで、上のシュンペーターの主張を、矛盾やパラドクスに依存することなく解説しなさい。そのさい、シュンペーターの説明をなぞるだけでなく、なぜ矛盾やパラドクスに見えるのか、それをどう整理すれば解けるのか、という点について自分なりの分析も十分に行うこと。

<解説>

授業では、資本主義が社会主義に転化する理由として、「企業者機能の無用化」と「擁護階層の壊滅」を紹介しました。ですので、まずはこれらを理解していることを示してもらいたかったです。授業プリントには載せたものの授業で説明できなかった「資本主義社会の制度的枠組みの破壊」に言及した答案もありましたが、これも問題ありません。

ちなみにシュンペーターは資本主義が社会主義に転化する理由をいくつも述べているのですが、授業時間がなくなったため、そのいくつかは授業プリントでも授業でも紹介することができませんでした。ところが、それらの理由を挙げた答案が一定程度あり、驚かされました。もちろん、何らかの文献を自分で読んで書いたのであればよいのですが、きちんとした参考文献の記載のないものがほとんどであり、このような答案は非常に心証を悪くしました。

「なぜ矛盾やパラドクスに見えるのか、それをどう整理すれば解けるのか」という点については、皆さんの自由な考えを聞かせてもらいました。いちおうこちらの用意した答えは、「企業者がまったく新しいことを実行する」というのはシュンペーターの経済学にもとづく説明であるのに対し、「資本主義が必然的に社会主義に転化する」というのはシュンペーターの社会学にもとづいた説明である、というものです。皆さんの答えの中で、よくないものを2つ挙げると、1つは、前段落で書いた理由と同じものをここでも書いた答案です。もう1つは、「企業者がまったく新しいことを実行する」のは短期的現象であり、「資本主義が必然的に社会主義に転化する」のは長期的現象だから、というものです。短期的現象が長期的に起こり続けるとなぜ全く異なることが生じるのかを聞いているのですから、理由になっていません。